

# 災害救援活動の概要

資料提供団体名：全国児童発達支援協議会（CDS Japan）

## 1. 被災状況の確認

- (1) 被災した障害者の安否確認を（①行った〈一部〉）  
 (2) 確認状況

|                     | 福島県   | 宮城県   | 岩手県  |
|---------------------|---|---|--|
| どのような人を対象に、調査したか    | ①児童デイスを中心に事業所に電話をして、確認。<br>②児童通所系施設・事業所に訪問し、お話を伺った。 | ①児童デイスを中心に事業所に電話をして、確認。<br>②仙台市内2箇所、気仙沼の児童デイ2箇所に訪問し、お話を伺った。 | ①児童デイスを中心に事業所に電話をして、確認。<br>②東北にボランティアとして入った関係者が訪ねた |
| ① 調査対象の総数           |   |   |  |
| ② 調査をした人数           | 46施設事業所中、27の施設事業所と契約している子どもを対象                      | 61施設事業所（内、仙台市34）中、60（内、仙台34）の施設事業所と契約している子どもを対象             | 35施設事業所中、27の施設事業所と契約している子どもを対象                     |
| ③ ②のうち不明            | 2（別途、15名が県外避難）                                      | 0   | 0  |
| ④ ②のうち死亡            | 0   | 0   | 1  |
| ⑤ ②のうち、支援を必要とする人の人数 | 詳細不明  | 詳細不明  | 詳細不明   |

- (3) 福祉施設等の事業所の被害状況の調査を（①行った）  
 (4) 確認状況

|                    | 福島県  | 宮城県  | 岩手県  |
|--------------------|--|--|--|
| どのような施設、事業所を対象にしたか | ①フムネットの児童デイのデータを抽出。電話をして、確認。<br>②知的通園2箇所、肢体入所2箇所関係者から聞き取り。 | ①フムネットの児童デイのデータを抽出。電話をして、確認。<br>②仙台市内2箇所、気仙沼の児童デイ2箇所に訪問し、お話を伺った。 | ①児童デイスを中心に事業所に電話をして、確認。<br>②東北にボランティアとして入った関係者が訪ねた |
| ① 調査対象の総数          | 46施設事業所（知的通園2、肢体通園2、児童デイ42）                                | 61施設事業所（内、仙台市34）<br>[知的通園5（うち仙台2）、児童デイ60（うち仙台32）]                | 35施設事業所（知的通園2、肢体通園1、児童デイ32）                        |
| ② 調査をした事業所数        | 27施設事業所（7か所は原発にて避難）  | 60施設事業所（内、仙台市34）   | 27施設事業所  |

|                  |    |               |   |
|------------------|----|---------------|---|
| ③ ②のうち被害のあった事業所数 |    |               |   |
| 全壊               | 0  | 4 (うち、仙台 0)   | 3 |
| 一部損壊             | 13 | 20 (うち、仙台 13) | 6 |
| その他              |    |               |   |
| ④ スタッフの被害状況      | 0  | 0             | 0 |
| 死亡               |    |               |   |
| 不明               | 0  | 0             | 1 |
| ⑤ その他の確認状況       |    |               |   |

## 2. 被災者のニーズ把握と支援内容

- (1) 被災した障害者のニーズ把握を (①行った)
- (2) 被災した障害者への支援を (①行った)
- (3) 震災直後から現在までの活動状況

|              | ニーズ把握の概要<br>人数、内容の概要を県、市町村を<br>明らかにしながら、ご説明ください。  | 支援内容の概要<br>人数、内容の概要を県、市町村を<br>明らかにしながら、ご説明ください。   |
|--------------|---|---|
| ① 震災直後～2週間まで | <p><b>元となる施設事業所リスト</b><br/>宮城県は、県の障害福祉課より調査データを入手。当方が持つデータとの照合を行い、不足していた事業所に連絡確認を行った。</p> <p>全域の障害児関連通所のデータとしては、肢体・知的・難聴の通園施設は、すぐに入手できた。しかし、2種の市町村事業である児童デイの事業所データがつかめなかった。ワムネットより入手して、施設事業所リストを作成した。</p> <p><b>募金</b><br/>関連施設事業所への募金の依頼発信</p> |   |
| ② 2週間～1か月まで  | <p><b>施設単位にて調査</b></p> <p>①メール配信による調査<br/>サーバーのパンクにより配信に時間を要した。</p> <p>②電話等での調査</p> <p>③協議会のHPに携帯の掲示板を新設し、携帯から情報提供を呼びかけた。(ほとんどリアクションなし)</p>   | <p>ニーズの多くはライフライン<br/>ガソリン、発電機用の軽油、電気、子どものおやつなど</p> <p>ただし、地域によって全く状況が異なる点がある。詳細の記載は、別紙参照していただきたい。</p> |

|                   |  |  |
|-------------------|--|--|
|                   | <p><b>利用者リスト</b></p> <p>在宅の障害児は、事業所単位でないと把握ができない。</p> <p>契約による利用に伴い、事業所単位の契約児童リスト（安否情報確認のためのリスト）が入手困難であった。（緊急時であるにもかかわらず、個人情報保護の観点から国保連のデータも公開が困難である。）</p> |  |
| <p>③ 1か月～現在まで</p> | <p>①震災対応のスキーム「障害児・知的障害・発達障害関連・・・・・・・・協議会」と合同に活動開始</p> <p>②役員にて福島県を中心に訪問</p> <p>③各施設事業所とその利用者から物資ニーズ票を郵送し、事業所ごとに利用者のニーズを聞き取っていただき必要であれば、調達する</p>            | <p>①ほとんど施設単位のニーズしか出てこない。</p> <p>現地相談支援関係者からのニーズをもとに事業所とつなげるしかない。</p> <p>②ニーズが把握できたところには物資を提供した。</p> <p>県庁担当者のニーズとして、原発で避難してきている会津若松等での児童デイの受け入れ先のキャパが不足。別途臨時で立ち上げる際の人的ニーズが上がっているとの情報あり。事務局にて真意と内容を確認中</p> <p>③現状では、物資支援に関して「必要なし」との返信が帰ってきている。</p> |

### 3. 上記以外のその他の支援活動

ニーズが出てこないため、今後長期的に人的な後方支援等を必要とすることを加盟施設に確認。

### 4. 支援での課題等

障害種別等による各団体の動きにより混乱をきたしていると強く感じている。

内閣、もしくは厚生労働省障害福祉課において、早々に団体を束ねる必要があったのではないか。

子どもに関し、特に在宅障害児に関してニーズの調査は今からであると感じている。

運営、配置の面から、職員派遣に即座に応じれる余裕がない施設事業所は少ないと思われる。